

2.6 干潟の現状調査

2.6.1 干潟形状の変化

(1) 調査結果

季節別調査地点別の干潟形状及び朝明川河道の状況を図 2.6.1～図 2.6.3 に示す。

1) 朝明海岸（調査地点①）

各季を比較すると、干潟の形状に大きな変化は見られない。2m 程度の高さのある前浜上には、枯死した樹木や草本、人工物等からなる漂着ごみが多く堆積している。その前面の干潟をつくる沖浜は緩やかに傾斜しており、ところどころに波浪や沿岸流によって運ばれた砂礫が堆積した小高い丘上の砂堆が形成されている。



秋季（平成 29 年 11 月 2 日）



冬季（平成 30 年 1 月 31 日）



春季（平成 30 年 3 月 6 日）



夏季（平成 30 年 8 月 10 日）

図 2.6.1 朝明海岸の干潟形状（調査地点①）

2) 朝明川河口部（調査地点②）

各季を比較すると、河口部の濤の位置や中洲の形状、植生の状況等、いずれも変化は認められなかった。

秋季から春季にかけては舗装工事や照明工事等の上部工の施工、夏季には道路が供用されたことから、事業による河道への影響はなかった。



秋季（平成 29 年 11 月 2 日）



冬季（平成 30 年 1 月 31 日）



春季（平成 30 年 3 月 6 日）



夏季（平成 30 年 8 月 10 日）

図 2.6.2 朝明川河口部の形状（調査地点②）

3) 朝明川河道部（調査地点③）

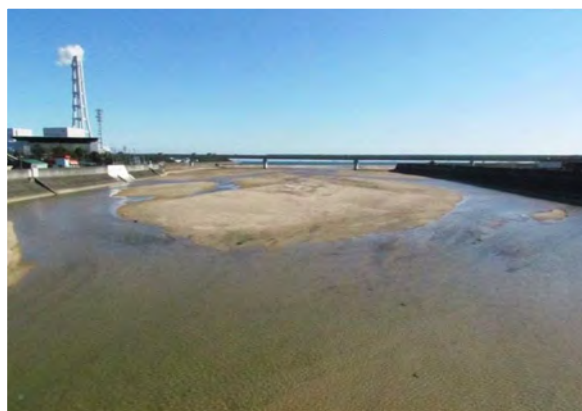
各季において、河道の中央に中洲が形成され、左右岸寄りに濬が形成されている。四季を通じて大きな変化は認められないが、夏季には中洲が縮小して下流側に移動するとともに、左右両岸の上流側に洲が堆積するなど、若干の変化がみられた。この要因となる春季から夏季にかけての出水は、梅雨前線上の低気圧通過による平成30年6月20日の大雨と、三重県に上陸した台風12号による7月28日～29日の大雨が考えられる。



秋季（平成29年11月2日）



冬季（平成30年1月31日）



春季（平成30年3月6日）



夏季（平成30年8月10日）

図 2.6.3 朝明川河道部の形状（調査地点③）

2.6.2 人の干潟利用状況

(1) 調査結果

季節別利用形態別干潟利用者数を表 2.6.1、干潟の利用状況を図 2.6.4 に示す。

各季調査で確認された利用者数は合計 190 人であり、利用形態は潮干狩り、散歩、ゴルフの練習、釣り、モーターパラグライダーの 5 種であった。利用形態別利用者数は、潮干狩り利用者数が最も多く全体の約 88% を占め、1 日あたり 25 人から 60 人の利用があった。

表 2.6.1 季節別利用形態別干潟利用者数（人）

利用形態	平成 29 年度		平成 30 年度		合 計	
	秋季	冬季	春季	夏季	利用者数	割合 (%)
潮干狩り	60	25	38	39	162	87.6
散歩		3	4		7	3.8
ゴルフ練習	2	1	2		5	2.7
釣り				6	6	3.2
モーターパラグライダー	5				5	2.7
合 計	67	29	44	45	185	100.0

注) 潮干狩り利用者は出入りが多いため、実人数より少なくカウントした可能性が考えられる。

《潮干狩り》 写真上2枚：秋季、下左：冬季、下右：夏季



《散歩》 春季



《ゴルフ練習》 秋季



《釣り》 夏季



《モーターパラグライダー》 秋季



図 2.6.4 干潟利用状況